



第4回 GSM 研究会 スポンサーセミナー

Fotona
choose perfection

最先端フェムテックを活用したGSM治療

日時 2022年10月8日(土)17:15~18:15

会場 大手町ファーストスクエアカンファレンス
Room A

座長 **太田 博明 先生**
川崎医科大学 産婦人科学2 特任教授/
川崎医科大学総合医療センター 産婦人科 特任部長



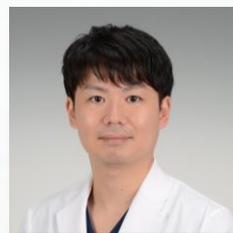
演者 **GSM治療の実際**

中村 綾子 先生
女性医療クリニックLUNAネクストステージ 院長



演者 **高強度テスラ磁気刺激療法による
下部尿路のアンチエイジング**

小林 拓郎 先生
順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学



【本セミナーでご紹介されているレーザー装置及び高強度テスラ磁気刺激装置情報サイト】

- ◆インティマレーザー治療 (公式HP) <https://www.fotona-smooth.com/> (日本語情報サイト) <https://intimalaser.jp>
- ◆高強度テスラ磁気刺激治療 (日本語情報サイト) www.facebook.com/StarformerIntimawave

【最新医療情報・セミナーに関するお問合せ】

<Fotona社日本代理店> ハルテック株式会社

<https://haltek.co.jp>

✉ info@haltek.co.jp

<婦人科・泌尿器代理店> TMKメディカル株式会社

<http://tmkmedi.jp>

✉ info@tmkmedi.jp

Tel. 052-253-7707



【問合わせフォーム】

最先端フェムテックを活用したGSM治療

座長 太田 博明 先生

川崎医科大学 産婦人科学2 特任教授/

川崎医科大学総合医療センター 産婦人科 特任部長

1. GSM治療の実際

演者 中村 綾子 先生 (女性医療クリニックLUNAネクストステージ 院長)

GSMとは、2014年に国際女性性機能学会(International Society for the Study of Women's Sexual Health)と北米閉経学会(The North American Menopause Society)によって新たに提唱された単語で、閉経に伴う、外陰・膣の萎縮変化およびそれに伴う不快な身体症状と機能障害の総称である。従来の萎縮性膣炎(Vulvovaginal atrophy)という単語に比較して、症状・病態を包括的に受け入れる概念とされる。

GSMの3徴は、1. 陰部の乾燥感や疼痛 2. 排尿トラブル(頻尿・尿漏れ・再発性膀胱炎) 3. 性交時痛である。慢性かつ進行性で、罹患率は閉経後女性の50%といわれている。GSMの診断は外陰部の所見で可能であり、尿道口の円形化、膣前庭部の乾燥、小陰唇短縮など3つの所見があれば、GSMと診断が可能と考えられる。

一般クリニックでのGSM治療への対応案としてはまずは保湿・乾燥予防としてヘパリン類似物質(ヒルトイド®等)、アズノール軟膏、亜鉛華軟膏等を処方し、それで効果不十分であれば、エストリオール腔剤併用が考えられる。さらに女性医療クリニックLUNAでは、独自に開発した外陰部専用の美容液(商品名LUNA Pride)や女性ホルモン含有セサミオイル(商品名 LUNAアディショナルオイル)、男性ホルモンクリームと女性ホルモンクリームを混合したクリーム(商品名 GBクリーム)、理学療法士による骨盤底リハビリテーション(必要に応じて膣バイブレーションや膣ダイレーターを使用)、CO2フラクショナルレーザーや Er:YAGレーザー装置などの膣デバイスを用いた治療などの選択肢があり、症状や困窮度に応じて各治療のコンビネーション治療を行っている。

今回は当院で施行している様々なGSM治療について紹介する。また、新たな治療の選択肢として導入したFotona社(スロベニア)製 Er:YAG レーザー装置(TIME WALKER IntimaLaser)はGSMおよび尿失禁、膣弛緩、骨盤臓器脱、便失禁などの骨盤底障害に対して適応があり、この装置の導入により治療の選択肢が大きく広がったが、今回、IntimaLaserの治療成績や対象となる患者像などを中心に報告を行う。



中村 綾子

2007年 横浜市立大学医学部卒業、日本赤十字社医療センター臨床研修医

2009年 横浜市立大学泌尿器病態学に入局、みなと赤十字病院、横浜市立大学附属病院、藤沢市民病院、横浜保土ヶ谷中央病院勤務

2014年 女性医療クリニックLUNAネクストステージにて泌尿器科外来を担当

2017年 女性医療クリニックLUNAネクストステージ泌尿器科院長就任

2. 高強度テスラ磁気刺激療法による下部尿路のアンチエイジング

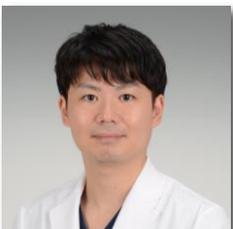
演者 小林 拓郎 先生 (順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学)

下部尿路機能障害は加齢により増加し、特に尿失禁は生活の質を大きく低下させる。さらに尿失禁の診断は、その後の入院リスクの増加に関連することが報告されており、下部尿路のアンチエイジングは、健康寿命を伸ばすために重要な課題となっている。

磁気刺激療法は、磁気により発生する電流を利用し、神経や筋肉を刺激する非侵襲的な治療として、近年注目されている。特に泌尿器科領域では尿失禁の治療を中心に、多くの骨盤底筋に関与する疾患の改善に効果が期待されている。しかしながら、本邦における磁気刺激療法の保険適応は、尿失禁を伴う成人女性の過活動膀胱患者に限られ、その他の下部尿路機能障害患者に対する臨床的なエビデンスが乏しいのが現状である。

そこで我々の研究施設では、下部尿路機能障害患者に対して、高強度テスラ磁気刺激療法を施行し、治療の効果を比較検討した。

本セミナーでは、下部尿路機能障害に対する高強度テスラ磁気刺激装置の使用経験及び有効性を検討した結果を報告する。



小林 拓郎

2016年 順天堂大学医学部卒業、順天堂大学医学部初期研修医

2018年 順天堂大学医学部泌尿器科後期研修医

2019年 順天堂大学医学部附属練馬病院 泌尿器科

2020年 順天堂大学医学部泌尿器科

2022年 順天堂大学大学院医学研究科修了(医学博士)

2022年 順天堂大学医学部泌尿器科助手